

ソフィックス社長

西山 清隆氏

「工作機械や鍛圧機械向が来ると確信している」
ソフトウェアを開発す

るソフィックス(横浜市 港北区新横浜3の18の16)は、事業の新しい柱として、操作パネル画像

認識システム「ソフィックスキャンΩアイ」の販売を開始した。
既存設備の工作機械を

この人にく
聞

カメラで簡単にIoT化するシステムで、19万8000円(税別)の安さも売りの一つ。西山清隆社長は「今後はオリジナル商品を意欲的に開発していきたい」と意気込む。
「Ωアイは、昨秋のJMTOW2016に出展以来、すでに40台近く売れた。まだ認知度は低いですが、問い合わせは多く、どこかでブレイクスルー

ものづくり全自動化
リーディングカンパニーへ



Dランプが点灯していた時間をデータ化することで、作業者が機械の傍で作業した時間を見える化することができるとしている。
「このデータを機械の稼働実績と付き合わせることで、例えば機械が待機状態になってから作業者が来るまでの時間が分

本の製造現場をより良くするために、直接エンドユーザーに提供できるオリジナル商品としてΩアイの商品化した。
「機械の制御盤の配線から稼働状況を取る方法は既存するが、ユーザーは制御盤から配線を取り出すのは嫌がる。ところがΩアイは磁石で機械に取り付けるだけで、面倒な作業を必要としない簡便さが特徴だ」
ユーザーは、切削加工でも板金加工でも、工場内の合理化、不良率の削減、在庫率の削減など、工場

「これが工場のプラスになる」と信じている。センサーを売り、見える化が点灯する仕組み。Ω社は、2020年に収益は黒字に。16年には11億円と大台を超え、17年12・8億円をめざして、20年には20億円を目標にしている。
「社員は若くないと集まらないうえ、27〜35歳が中心になる」
若さが売りの同社は現在、110人だが、来年は10人採用、さらに若くなく、20年には140人を増やす。目標は、向かってアクセルを踏み続ける。

操作。パネル画像認識システム
「スキキャンΩアイ」拡販



ボット、コスメットと展示のエンジン、チャット組込部のIOM、マクニオン、パンモ機やのME、多面トなど、各種の各リユー、ドサー、環境、同

自